

因幡街道 大原宿

古町界隈散策マップ

古町の地名は、明応二年（一四九三）に新免伊賀守貞重が山王山城から竹山城へ移ったので、山王山城下の集落を古町と呼んだという。

古町は因幡街道の宿駅（宿場町）でもあったが、宿駅は小原駅（宿）と呼ばれ、上小原（古町・川西）と下小原（辻堂）に分かれていた。しかし宿駅の仕事の中心は本陣・脇本陣を持つ古町村であった。

仏頂山円明寺（ぶつちょうざんえんみょうじ）
宗派は真言宗古義（こぎ）で、本寺は和歌山県高野山金剛三昧院（さんまいいん）です。
仏頂山円明寺の由来は、寺伝によると、天慶三年（九四〇）、山城国綴喜郡男山の石清水八幡宮の別宮として、現在の宇八幡に八幡神社を勧請したとき、その隣接地に一寺を創立して八幡山神宮寺と称しました。本尊は華師如来。真言宗の僧徒が常に仏事を修し別宮に奉仕し、地続きの三味谷（さんまいだに）に三味堂を建立しました。この神宮寺が大原保を荘園として支配したといわれています。
円明寺には、鳥取藩主池田長幸の妻で津山藩主森忠政の娘の松姫の位牌と、堪海（たんかい）の不動明王軸とが火災から免れ、今も大切に保管されています。
また、毎年正月年頭、二月祭燈護摩、六月先祖供養、八月施餓鬼（せがき）、十二月家浄（いえきよめ）お札配り、春秋の彼岸供養の法会（ほうえ）が執り行われています。

三九郎稲荷（さんくろういなり）
新ナジ屋ケ瀬橋を渡ると、何十本もの赤い鳥居が目に入ります。この稲荷社には次のような伝説があります。
元和元年（一六一五）大坂落城の時、豊臣方の首藤右衛門・小林三九郎等数人の武士は、城を脱出し、下庄の平尾九郎兵衛を頼った。九郎兵衛は彼等を下庄竹谷に隠れさせたが、小林三九郎は、特に狐使いの名人で、狐も連れてきていた。或る日、九郎兵衛が山狩りに出て、子狐を一匹射止めた。たまたまそれが大坂から連れてきた狐だったので、狐は怒って九郎兵衛の下女にとりついた。下女は、精神錯乱を起こして逃げ出した。三九郎は、これを滝村のあたりまで追いかけて捕らせた。九郎兵衛の思と子狐の不用心を聞かされたので、狐つきは落ちて下女は治った。以来、狐は下町の竹山に移り住むようになったという。
元禄十年（一六九八）、このあたりは幕府領となつて古町に代官所が置かれ、代官内山七兵衛が赴任してきた。ある時、竹山に巻狩りをした。例の狐は、竹山に居ることができず、古町に逃げた。竹山に巻狩りがはやした。そこで、古町では京都より正一位の神位を申し受けた稲荷社を宇西山の桜尾に造営し、その古狐を神使としたといわれています。

会下城跡
市道大西線を北へ進むと旧大原保育所跡があり、そのすぐ北に古い石垣の連なりがある。天正八年（一五八〇）頃、竹山城の新免氏に宇喜多直家と結び、北西から侵入する毛利に對抗し、町域の各地に構を設けました。構の構もそのひとつです。108m四方の構は、外側に塙を廻らし、その内に北門をもつた土手がありました。この石垣はその名残です。

県（あがた）の構跡
市道大西線を北へ進むと旧大原保育所跡があり、そのすぐ北に古い石垣の連なりがある。天正八年（一五八〇）頃、竹山城の新免氏に宇喜多直家と結び、北西から侵入する毛利に對抗し、町域の各地に構を設けました。構の構もそのひとつです。108m四方の構は、外側に塙を廻らし、その内に北門をもつた土手がありました。この石垣はその名残です。

平賀元義の歌碑
大原神社の石段を上り隨身門を通って左手に、歌碑（高さ65cm）の自然石の土台に、高さ165cm・幅100cmの花崗岩）が建てられています。歌碑の正面には「弘化四年（一八四七）八月十二日大原の郷三星の茂信が家にて、美作や大原山の山つ草こきたくひて吾は肥にけり、源元義」と刻んであります。
平賀元義は、寛政十三年（一八〇〇）現倉敷市玉島陶（すえ）に、岡山藩士の子として生まれました。主として備前・備中・美作を放浪し、歴史・地理・神事などの調査研究に専念しました。明治の中頃、正岡子規が日本新聞に、「万葉調の歌を世に残したる者、実に備前に歌人平賀元義一人のみ」と絶賛紹介しています。
作州路は、元義が脱藩のち、よく親しんだ土地で門人も多く、現在では四基（柵原、大原、奈義、津山）の歌碑が知られています。
大原神社には、もう一首、「玉串け ふたかわ流れあう原の 神のみたらし清くありけむ」



八幡（はちまん）神社
八幡の八幡神社は、大原神社の摂社（せつしや）であります。後醍醐天皇が隠岐の島より京都への帰途に宿舎となった神宮寺とともに崇えたとされています。石垣は特に見事で、城の石垣造りの名工の造ったものです。

山王山城跡（朝霧山）
智頭急行「大原駅」
着工から二十八年を経た平成六年十月三日開通。明治二十二年（一八九〇）、吉野郡内有志により「山陰鉄道敷設協議会」が設立され、境港から姫路までの鉄道敷設を帝國議院（国会）へ請願。昭和三十二年（一九五七）に至つて再燃し、建設期成同盟を結成。四十一年に「智頭線」の仮称のもとに起工式が行われ、トンネル工事から進められてきました。その後、国鉄の廃止、JRの発足という大きな変化があり、工事も一時中断されましたが、平成六年に至つて、第三セクター方式による「智頭急行株式会社」を設立。先人たちの夢は一〇五年を経てようやく実現しました。急行の停車する本駅舎は、宿場町の町並みにふさわしく格子子戸・虫窓窓などを持つ建物です。

大原神社
大原総合支所の交差点を東に約100m行くと左手にあります。伝えるところによると、昔、神の託宣があつて出雲から大己貴命（おおなむちののみこと）：大國主命の別名）を勧請したといわれています。初めは、古町宇西山の炭釜山に社殿を建立したが、寛平四年（八九二）に立畑（たてはた）：高野山山頂）に移し高野山日吉山王宮といいました。さらに天慶元年（九三八）に現在地に移り、日吉山王宮と改められたといわれています。現在の切妻流れ造り三間社の神殿は、寛文八年（一六六八）に津山藩主森長継が寄進したものです。
明治六年（一八七三）に日吉山王宮を郷社大原神社と改め、同十三年に隨身門（すいしんもん）を新築、同三十四年新たに二段の石段を築き、大正六年（一九一七）には鳥居下の石段も造られました。
本殿の周囲には大小の小宮が祀つてあります。正面の左手に天神社・金比羅神社・荒神社・裏に岩宮、右手へ廻つて子守神社・愛宕神社があり、伏見稲荷神社が祀つてあります。

山王山城跡（朝霧山）
着工から二十八年を経た平成六年十月三日開通。明治二十二年（一八九〇）、吉野郡内有志により「山陰鉄道敷設協議会」が設立され、境港から姫路までの鉄道敷設を帝國議院（国会）へ請願。昭和三十二年（一九五七）に至つて再燃し、建設期成同盟を結成。四十一年に「智頭線」の仮称のもとに起工式が行われ、トンネル工事から進められてきました。その後、国鉄の廃止、JRの発足という大きな変化があり、工事も一時中断されましたが、平成六年に至つて、第三セクター方式による「智頭急行株式会社」を設立。先人たちの夢は一〇五年を経てようやく実現しました。急行の停車する本駅舎は、宿場町の町並みにふさわしく格子子戸・虫窓窓などを持つ建物です。

大原神社
大原総合支所の交差点を東に約100m行くと左手にあります。伝えるところによると、昔、神の託宣があつて出雲から大己貴命（おおなむちののみこと）：大國主命の別名）を勧請したといわれています。初めは、古町宇西山の炭釜山に社殿を建立したが、寛平四年（八九二）に立畑（たてはた）：高野山山頂）に移し高野山日吉山王宮といいました。さらに天慶元年（九三八）に現在地に移り、日吉山王宮と改められたといわれています。現在の切妻流れ造り三間社の神殿は、寛文八年（一六六八）に津山藩主森長継が寄進したものです。
明治六年（一八七三）に日吉山王宮を郷社大原神社と改め、同十三年に隨身門（すいしんもん）を新築、同三十四年新たに二段の石段を築き、大正六年（一九一七）には鳥居下の石段も造られました。
本殿の周囲には大小の小宮が祀つてあります。正面の左手に天神社・金比羅神社・荒神社・裏に岩宮、右手へ廻つて子守神社・愛宕神社があり、伏見稲荷神社が祀つてあります。

山王山（さんおうざん）城跡
山陰と山陽を結ぶ因幡街道の要衝であつた古町は、たがたび山陰・山陽の両勢力の合戦の場となりました。古町には、構跡一か所、城跡が三か所もあります。山王山城があつた朝霧山は大原神社（山王宮）の裏山で、古町の東側にあつて尾根型をしています（標高355m）。地元の人たちはもっぱら城山（しろやま）と呼んでいます。
この山に、建武二年（一三三五）、足利氏方の赤松の武将小原孫次郎入道信明が築城し、小原城といいました。康安元年（一三六一）山陰の山名時氏が兵三千を率いて美作に侵攻すると、小原・八幡・大野の諸城は、これに降参したといわれています。その後康正二年（一四五六）、今度は赤松方の武将宇野家貞が播磨高田から入つて城を修理しました。これが山王山城です。宇野家貞は、新免貞重と嫁した子の養子とします。これが宇野貞重で、後に新免伊賀守貞重と改めました。貞重が明応二年（一四九三）下町の竹山城に移ると、この城は廢城となりました。城の南が大手で、本丸・三の丸と小郭や帯郭があります。堀切は長さ一町（約108m）余。城跡に登ると眼下に古町の町並みが一望できたそうです。

竹山城跡

因幡街道 大原宿

古町町並み保存地区マップ

街道の両側には水路が流れており、洗い場、防火用水、雪流し等の役目をなしていました。

●美容院
播磨国と因幡国を結ぶ街道は古くから人馬の往来があり、江戸時代は鳥取藩主の参勤交代の道となり、道路・宿駅が整備された。

古町は小原宿（おはらしゆく）と呼ばれ、本陣・脇本陣・問屋が置かれた。明治維新以後も「運輸交通頻繁にして旅客の本村（大原村）に宿泊するもの日々平均八九十人下らざりし」と『英田郡誌』が明治中期の状況を記している。

本陣

本陣には、因幡街道を往来する賓客も泊まりましたが、第一の利用者は、因幡二国で三十二万石の鳥取藩主の池田侯でした。天明三年（一七八三）類焼の記録がありますので、現在の本陣の建物は、寛政年間（一七八九～一八〇一）のものといえます。池田侯の参勤交代の途中の宿泊に供するために建てられたものですが、本陣は一般に宿場の素封家（そほうか：金持、財産家）が指定されました。営業ではなかったのですが、それなりの部屋は常に用意しておかねばならなかったようです。大名一行ともなれば人数も相当なものですから、用意の座敷も多く、またそれなりの格式ある造りでなければなりません。有元家文書によると、有元家は宝暦十一年（一七六一）に本陣を命ぜられて明治に至るとあります。それ以前は、新免家がしばらく勤め、その後中村家が引き継いでいたようです。数寄屋造の御殿と御成門が今なおその姿をとどめています。

鍛冶屋ヶ瀬橋

本陣の庭には、モッコクの木が植えてあります。モッコクは「千両万両を持ち込む」と言われ庭木にはよく用いられます。



町並みの特徴

古町では、享保十八年（一七三三）・天明三年（一七八三）・文政八年（一八二五）・天保七年（一八三六）と四回大きな火災が起こっています。建て込んだ家の造りには、火がえし・南北の火壁・通し土間など火災に対応した配慮が見られます。このことが、今でも古い町並みが残った理由です。

出桁（だしげた）

二階の軒先に桁を持ち出して支える出桁の手法は、古町の町並み景観を大きく特徴づけるものです。この手法は中国地方で広く見られます。古町の出桁は軒裏が人目をひくようになっていたため、一種の軒飾りとして採用されたようです。

袖壁（そでかべ）

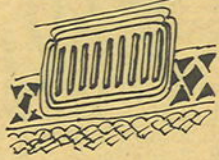
古町では「火返し」といいます。防火の願いを託した水や雲の形を大胆にあしらったものが人目をひきます。

ナマコ壁（なまこかべ）

もともとは防火対策のひとつで、二階壁面の足元を保護するもので瀬戸内沿岸に多く見られる手法です。これは手間のかかる高級な仕上げです。白黒のコントラストを持つナマコ壁は町並みの個性的な景観をつくっています。

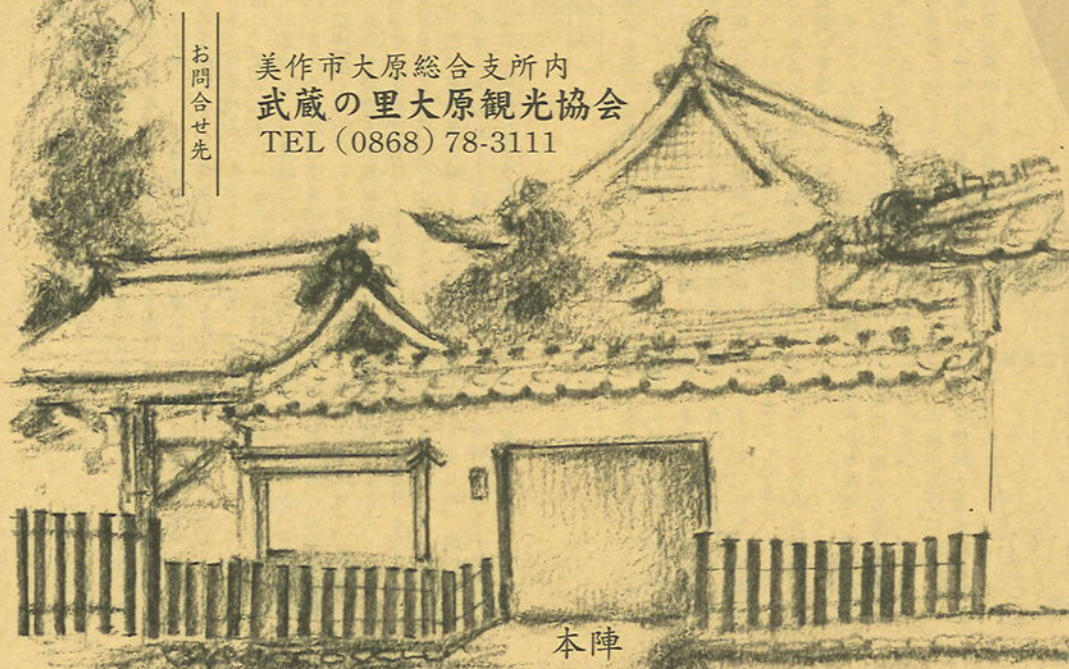
虫籠窓（むしこまど）

二階が低い物置さとなる場合に使用される特徴的な窓です。



美作市大原総合支所内
武蔵の里大原観光協会
TEL (0868) 78-3111

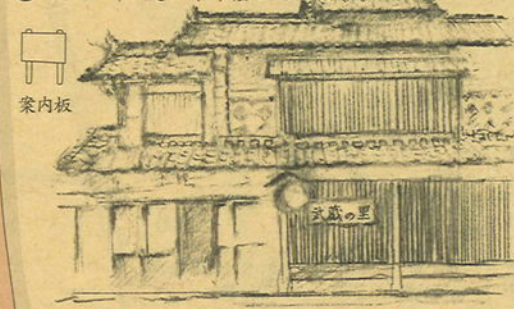
お問合せ先



本陣

梅の古木
3月下旬に鮮やかな花が見頃になります。

- 散髪屋
- 難波邸
- 蔵のこて絵
- ギンモクセイ
- 脇本陣 庭に水琴窟があります。



●田中酒造場 市内で唯一の造り酒屋です。



●司法書士事務所

大正ロマンの香り漂う建物です。内部には銀行として使われていた当時の金庫がそのまま残っています。



●あんこや (カフェ)

●消防器具庫・火見櫓

●ふれあい広場

●みまさかびんごるちゃん

●美容院

●黒松の木

●散髪屋

●酒屋

●呉服屋

●クリーニング屋

●弁財天や恵比須などの七福神の焼物瓦があがっている門。

●散髪屋

●南の土居跡 町の出入口を指す門のようなものがあったという。

●黒松の木

●ぼたんの古木 4月下旬が見頃。

●桜の古木

●更生橋

●三界萬霊碑

●この辺りはオオサンショウウオの棲息地です。

●昔、この辺りで大事な牛を洗っていました。

●道するべ

●道するべ

●道するべ

●道するべ

●道するべ

●道するべ

●道するべ

●道するべ

●道するべ

●道するべ

●道するべ

●道するべ

●道するべ

●道するべ

●道するべ

●道するべ

●道するべ

●道するべ

●道するべ

至大原駅

脇本陣

この宿場の脇本陣は、屋号を米屋としました。脇本陣は、大名や幕府の要人が本陣に泊まる時、重臣の宿舎にあてられました。平常は第一級の旅館（はたご）として営業を行ったようです。建築は、文政八年（一八二五）類焼後のもので、主家（桁行七間半、梁間五間半の町家造り）・玄関・長屋門（桁行九間半、梁間一間半）・池庭・土蔵を備えています。長屋門は、江戸時代普通の家になかったもので、虫籠（むしこ）窓があり、従者の詰め問の間に使われました。北の端の便所には刀懸けがあります。

●中国銀行



●水琴窟があります
耳をかたむけてみてください

●大原総合支所
●大原公民館

●町並み案内板

●町並み案内板

●町並み案内板

●町並み案内板

●町並み案内板

●町並み案内板

●町並み案内板

●町並み案内板

●町並み案内板

●町並み案内板

●町並み案内板

●町並み案内板

●町並み案内板

●町並み案内板

●町並み案内板

●町並み案内板

●町並み案内板

●町並み案内板

●町並み案内板

●町並み案内板

●町並み案内板

●町並み案内板

●町並み案内板

●町並み案内板

●町並み案内板

●町並み案内板

●町並み案内板

●町並み案内板

●町並み案内板

●町並み案内板

●町並み案内板

●町並み案内板

●町並み案内板

古町の歳事記

- 1月 とんど祭り
- 4月 ひな祭り
- 6月 なごせ
- 10月 秋祭り